

○現状分析 (学力調査等の結果を踏まえた内容別・観点別の分析表)

2年		平均正答率		分析
		本校	都	
国語		73.8	73.1	根拠を明確にして説得力のある文章を書く力について絵を比較して「書く能力」を問われた問題や、職場体験に関するスピーチをよりよくするための話合いについて考える「話す・聞く能力」を問われた問題の正答率は都の平均と比べて2%高かった。授業で鑑賞文を書いたり、2年生のキャリア教育で行う職場体験について問われたりという身近なテーマが出たことが理由であろうと考えられる。しかし、Bの読み解く力に関する内容では「取り出す力」が6.7%、「解決する力」が0.5%低く、資料から読み解く力に課題がある。調べたことを自分でまとめることで力を伸ばしていきたい。
観点別 正答率	関心・意欲	93.8	93.5	
	話す・聞く	70.3	68.6	
	書く	80.6	78.6	
	読む	71.2	70.6	
		知識・理解	71.4	71

3年		平均正答率			分析
		本校	都	全国	
国語		78	77	76.1	・「話す・聞く能力」の分野において、都の平均を1.8%下回っている。特に、相手の考えや意図を順序立てて、論理的に聞き取る力を伸ばしていく必要がある。 ・「書く能力」「読む能力」「知識・理解」のAに関しては都の平均を上回っているものの、得た知識を活用して表現したり、考えを深めたりする力が不足している。授業において、話し合い活動を積極的に取り入れ、他者との交流を通して、自己の考えを深めたり広げたりし、再発信できる力を身に付けさせる必要がある。
観点別 正答率	関心・意欲	49.9	51	50.3	
	話す・聞く	75.2	77	75.2	
	書く	76.1	75.3	73.9	
	読む	79.4	78.4	76.6	
		知識・理解	77.8	73.9	74.7

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は発言も多く、意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、個人による学力差が非常に大きい。 自分の意見を発表することに対して、苦手意識をもっている生徒が多い。 漢字の読み書きや語彙に関する知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの小テスト等を計画的に実施し、理解が不十分な生徒に対しては、個別学習や家庭学習等を課していく。 意見発表会や話し合い活動を適宜取り入れていく。話し合い活動を通して、自己の考えを深めたり広げたりすることの楽しさを実感できるように授業計画を修正していく。 漢字の小テストを毎週実施する。試験範囲を毎回示し、勉強すれば成果が出ることを実感することで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の個別学習、長期休業中の補充教室等を実施し、基礎学力の確かな定着を図る。 課題図書に基づいた読書の授業において、話し合い活動を積極的に取り入れ、他者との学び合いにより、自己の考えを深めたり広げたりできるよう指導していく。 毎週の漢字テストの予習や復習、宿題や家庭学習を継続して行うことで、基礎学力の確かな定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は意欲的に取り組み発言も多いが、定期考査では、問題に対して正しく解答することを苦手とする生徒が多い。 漢字の読み書きや短時間で丁寧に書くことに対して苦手意識をもっている生徒が多い。 読書の習慣は身に付いているので、良書に親しみ、読書を通して資料から読み解く力を付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章及び文学的文章の読解のスキルを繰り返し指導する。 漢字の小テストを毎週実施する。曜日を決め、小テストを繰り返し、定期的に行うことで漢字の読み書きへの苦手意識を減らすよう指導する。また、間違いの多かったものを全体に提示し、改善を促す。 年間指導計画に読書指導を盛り込み、課題図書等をはじめとして、読書指導を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書ワークを用いて、問題に対する解答の仕方を適宜指導する。 必要に応じて、放課後、個別に、補充学習を実施する。 読書新聞、本の帯・ポップ等の作成を通じて、読書から読み解く力を発揮させたい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は意欲的に取り組み発言も多い。漢字の読み書きや文法等、基礎事項の理解は2年次よりできているので、家庭学習及び予習の習慣化を促し、基礎学力の確かな定着を図っていく。 「話す・聞く」の分野において、聞き取る力を伸ばす必要がある。 読書の習慣は身に付いているが、幅広い分野の本を読み、自己の思考力や表現力を伸ばそうとする姿勢を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の宿題（漢字の読み書き等を中心とする）や予習ノートの指導を継続して行い、基礎的な学習事項の定着を確実にする。 「話す・聞く」の学習において、相手の考えや意図を正確に聞き取ることができるよう、聞き取りメモの指導等を計画的に行う。 課題図書の取り組み等において、幅広いジャンルの本に親しむように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習として、補充教室等においては、難解な長文読解問題に取り組みせ、読解力の向上を図る。 「話す・聞く」能力を高めるために、意見発表会やディスカッション等の言語活動を適宜取り入れていく。 課題図書をもとに読書の授業を計画的・系統的に実施する。その際、生徒の発表等を意識的に取り入れていく。